

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー
2023年度事業計画

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミーは、2023年度の事業計画を次の通り定める。

I 事業計画基本方針

当財団は、ウイズコロナ時代が続いている中で、2023年度においても以下の基本方針を掲げ、コロナ対策に万全を期し、且つ新たな活動や事業方策を検討し安定した財団運営を推進する。

1. 財団事業の展開

- 1) 定款に定められた当財団の目的に添って、キリスト教精神に基づき、立場の相違を越えた対話（はなしあい）を通し、自由、平等、正義、平和に基づく社会の実現に寄与する事業を一層活発に展開する。
- 2) コロナ禍における財団事業の展開において、①関西セミナーハウスの事業は、コロナの感染状況を踏まえつつ事業展開の可能性を模索し、段階的に新しい運営形態に取り組む。②アカデミー運動における事業活動は、引き続き3密対策を徹底し、研修・セミナーは積極的に集合形式を計画するとともに、リモート形式についても運営方法の充実をはかる。
- 3) 東・西施設の適切な運営管理を行い、法人運営の健全化を進める。

2. 事業の推進

1) 公益目的事業

(1) 東・西活動センター

- ① 現行のフォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続、発展させる。
- ② 各活動センターのプログラムは、それぞれにおける収支バランスをとることを原則とし、且つ事業費、寄付金収入も含めて、各活動センターとしての収支バランスの取れた運営を目指す。
- ③ 講師ならびに参加者同士の対話を中心に進めつつ、オンライン会議においてもより充実した運営方法に取り組む。
- ④ アカデミー運動の目的に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発と効果的な広報に取り組む。

- ⑤ 得られた成果については機関紙ならびにデジタルツールなどによって広く社会に発信し、啓発活動を活発化する。

(2) 関西セミナーハウス

アカデミー活動の安定的継続を支援するため、宿泊施設・会場を諸団体、教育機関・学会・研究会活動等の広い利用に供する方策を検討し実施する。

2) 収益事業

(1) 関西セミナーハウス

- ① コロナ感染対策を徹底しつつ、関西セミナーハウス新体制構築の準備期として、安定した運営に取り組む。
- ② 一般利用者、企業等に対して施設の利用を促進し、その収益の一部を公益活動に資する方策を組み込む。

(2) 日本キリスト教会館

当財団所有の事務所用物件の一部を貸与し、その収益を当該施設の補修、維持、向上等及び公益活動への貢献に資する。

なお、借主及び管理組合との交渉に関しては、財団本部が責任をもって行う。

3) 広報活動

フォーラム事業、研修・セミナー・体験交流事業等の内容並びに各年度事業計画・予算及び事業報告・決算を機関紙「はなしあい」において定期的に報告するとともに、より効果的な広報を検討し取り組む。

具体的には広報先やツールなどについて、効果的に且つ効率的に行う方策を検討し実施する。このことによって本法人の使命や活動をより広く知らせ、理解者、賛同者ならびに事業や活動の参加者、利用者の増加につなげる。

東・西活動センターおよび関西セミナーハウスの活動状況については、ホームページやSNS等によって積極的な情報発信を継続する。

3. 運営推進体制の安定化

公益目的事業の運営推進に当たって、継続的な事業に関しては明確な方向性と予算計画を持ち、プログラム毎の収支の整合化を原則とする。新規プログラムについても、必要財源を確保し、活動の安定的展開を目指す。

4. ドイツをはじめとする海外のアカデミー運動との連携を模索する。

5. 賛助会員、寄附金の拡充

公益目的事業、広報活動等を積極的に展開して、アカデミーの理念の理解、浸透につとめ、アカデミー運動を支えようとする賛助会員及び寄附金の仕組みや広報について見直し、拡充に取り組む。

II 関東活動センター2023年度事業計画

2023年度の関東活動センターは、日本クリスチャン・アカデミーの理念に基づき、以下のような諸プログラムを計画している。

1. Covid-19 感染がなお続く中で、今必要とされる課題についての講座や企画に絞って事業展開をする。この間、感染を避けるためリモートでのプログラムを展開してきたが、対面式、あるいはハイブリット式の講座を試みる。
2. 「今日的課題」Ⅰとして、「コロナ後の教会の可能性」について2021年度から継続して来た共同研究の成果を書籍にして、4月にキリスト新聞社から刊行予定であり、有効に活用する。
3. 「宗教対話」Ⅰとして、前年度に引き続き、連続講座「日本キリスト教史を読む 第Ⅲ期（昭和篇）」のアンコール開講を全面リモート（Zoom）で実施する。前回聞き逃した受講者だけでなく、リモートでの開講によって関西セミナーハウス活動センターの会員、さらに全国での受講者を募る。現在全国から約60名の受講者が与えられている。
4. 「宗教対話」Ⅱとして、昨年開講した連続講座「キリスト教と文学」の第Ⅱ期として、山根道公・知子夫妻（淑徳大学教員）を講師として、遠藤周作・宮沢賢治を取り上げる。これは明治以降の日本の近代文学に果たしたキリスト教の影響を、文学作品によって跡付ようという試み。当面、全面 Zoom で開講する。
5. また宗教対話Ⅲとして、昨年度の連続講座「キリスト教文学に学ぶ」からのスピン・オフ・プログラムとして、対面式での少人数の読書会「キリスト教と文学」（講師・柴崎聰）を開始する。
6. 「宗教対話」Ⅳは、これまでに引き続き柏木義円研究会との共催で、柏木義円の現代的意義を問う公開講演会を実施する。
7. 「聖書を読む講座」Ⅰは、山口里子氏によるマルコ福音書の新しい読み方を示す講座で、今期でⅥ期目になる。全面 Zoom による開講で、全国各地、さらに海外からも約70名の受講者がある。
8. 体験プログラムとして、コロナ以前に引き続き「礼拝の言葉を豊かに」というテ

ーマで、話し方ワークショップを月に一度のペースで開催する。礼拝の司式や聖書朗読、詩編交読、説教などの発声・発語の訓練を行う。但し、発声を伴うプログラムなので、コロナ下での再開の準備をする。

9. 各神学校の枠を超えた神学生たちの交流を目的とした「神学生交流プログラム」については、2023年度も各神学校の賛助を得て、第13回プログラムを実施する。リモートでの開催か、対面での開催かについては未定。

運営については対話を中心にしつつ進め、オンライン研修・セミナーのより充実した運営ならびに効果的な広報に取り組む。そして、得られた成果については機関紙ならびにデジタルツールなどによって広く社会に発信し、啓発活動を活発化する。

また、各事業における収支バランスをとることを原則とし、活動センターとしての収支バランスの取れた運営を目指す。

フォーラム事業			
関東フォーラム 今日的課題Ⅰ	共同研究	「コロナ後の教会への希望」 荒瀬牧彦（日本聖書神学校教授）	報告書をキリスト新聞社より4月に出版予定
関東フォーラム 宗教対話Ⅰ	7回	連続講座「日本キリスト教史を読む」Ⅲ（昭和篇 アンコール開講）講師 戒能信生（千代田教会牧師）早稲田奉仕園、関西セミナーハウス活動センターと共催） Zoomによる全国向け講座	第1回5月11日(木) 第2回6月8日(木) 第3回7月13日(木) 第4回9月14日(木) 第5回10月12(木) 第6回11月9日(木) 第7回12月14日(木)
関東フォーラム 宗教対話Ⅱ	6回	連続講座「キリスト教文学に学ぶ」Ⅱ 講師・山根道公・山根知子（ノートルダム清心女子大学教授）（Zoomによる全国向け講座	第1回5月29日(月) 第2回6月26日(月) 第3回7月24日(月) 第4回9月25日(月) 第5回10月23日(月) 第6回11月27日(月)

関東フォーラム 宗教対話Ⅲ	9回	読書会「キリスト教と文学」 講師・柴崎聰（文芸評論家） （原則として対面式での実施）	第1回5月16日（火） 第2回6月20日（火） 第3回7月18日（火） 第4回9月19日（火） 第5回10月17日（火） 第6回11月21日（火） 第7回1月16日（火） 第8回2月20日（火） 第9回3月19日（火）
	1回	柏木義円公開講演会「柏木義円 の日記に見るその日常」講師未定 （柏木義円研究会との共催）	11月18日（土）
話し方ワークショップ	10回	「礼拝の言葉を豊かに」話し方 ワークショップ（ステップ・アップ講座、 初心者も可）講師・友野富美子 対面プログラム	今年度中の再開を模索中
神学生交流 プログラム		第13回神学生交流プログラム 校長 神田健次（関西学院大学名誉教授）、 講師 未定 開催場所は未定	2024年3月に二泊三日で検討中

Ⅲ 関西セミナーハウス活動センター2023年度事業計画

2022年度に試行的使用が始まった関西セミナーハウスが、本格的使用に入ったので、本年度は、その施設の類まれな豊かさを生かした様々な活動を展開する。

秋には、関西セミナーハウスと共催で、洛北の秋を静かに味わう2泊3日の特別プログラムを開催する。夏には、過去10年間継続してきたエネルギーを考える修学院フォーラムを1泊2日で若者と共に開催する。秋には、聖書に基づき現代の問題を考える修学院フォーラムを1泊2日で開催する。

その他、女性差別、LGBTQ、子どもの権利、憲法、良心的兵役拒否、エコロジー、晩年の看取りなどの問題を、講師と直に語り合って考える。ただし遠方の方は、オンラインで参加することも可能なようにする。

開発教育セミナーでも、人権・平和・環境などの地球的課題を対面の参加型学習で学び、私たちの社会のありようを考える。

運営については対話を中心にしつつ進め、オンライン研修・セミナーのより充実した運営ならびに効果的な広報に取り組む。そして、得られた成果については機関紙ならびにデジタルツールなどによって広く社会に発信し、啓発活動を活発化する。

また、各事業における収支バランスをとることを原則とし、活動センターとしての収支バランスの取れた運営を目指す。

フォーラム事業			
修学院フォーラム 社会	第1回	憲法9条は死んでしまうのか？（仮） 講師 高作正博（関西大学法学部）	6月17日（土）
	第2回	エネルギーを考える第11回 原発回帰か自然エネルギーの再生か？我々はどんな世界を目指すのか？ 講師 福嶋 揚（神学者） 講師 片岡輝美（交渉中） 講師 近藤 恵（二本松営農ソーラー株式会社取締役） 講師 牛山 泉（足利大学名誉教授）	7月30日（日）～31日（月）
	第3回	聖書をエコロジーの視点で読む エコロジカル聖書解釈への招き 講師 大宮有博（関西学院大学法学部教授）	10月21日（土）
	第4回	戦争と兵役を拒否した人びと—20世紀世界大戦時の英米と日本（仮） 講師 西村裕美（前立教大学教授）	12月2日（土）
修学院フォーラム	第1回	スピリチュアルケアのこころ—ホス	2024年1月27日（土）

福祉		ピスにおける宗教の役割 講師 ティモシー・ベネディクト (関西学院大学社会学部助教)	
	第2回	子ども・女性・若者の「貧困」(仮) 講師 交渉中 京都 YWCA と共催	2024 年 1～2 月予定
修学院フォーラム いのち	第1回	研究の主体でもない、対象でもない 『女性』～日韓キリスト教関係史から探る～ 講師 神山美奈子 (名古屋学院大学商学部准教授)	4 月 22 日 (土)
	第2回	聖書で読み解く LGBTQ (仮) 講師 バーナデッテ・ブルーテン (ブランダイス大学教授)、(通訳) 山口里子 (聖書学者)	6 月 3 日 (土)
	第3回	現代の課題に対して聖書は何を語るか (仮) 講師 月本昭男 (古代オリエント博物館館長)	11 月 3 日 (金・祝)～4 日 (土)
	第4回	「性」の神学的意味付けについて (仮) 講師 朝香知己 (同志社大学嘱託講師)	9 月または 3 月予定
研修・セミナー・体験交流事業			
開発教育セミナー	第1回	開発教育入門セミナー 「貿易ゲーム」「あなたに贈りたいチョコレート」(仮) 講師：開発教育研究会 共催 (公財) 京都市国際交流協会	6 月 18 日 (日)
	第2回	人も自然も壊さない経済とは？食べ物から社会を解き明かす (仮)	7 月 8 日 (土) ～9 日 (日)

		講師 平賀緑（京都橘大学経済学部 准教授）	
	第3回	ロールプレイ再考～演劇ワークショ ップを通して～（仮） 講師 くるみざわしん（劇作家・精神 科医）	9月9日（土）10日 （日）
	第4回	分断を乗り越え、平和と人権を考え る～ウトロ地区フィールドワークか ら～（仮） 講師 金秀煥（ウトロ平和祈念館副 館長）	10月7日（土）～8日 （日）
	第5回	立ち止まって語り合おう！ 開発教 育のこれまでとこれから（仮） 講師 藤野達也（元PHD協会）	11月4日（土）～5日 （日）
	第6回	マイクロアグレッションってなあ に？～日常の無関心の中にある差別 と向き合う（仮） 講師 北川知子（（特活）とんだばや し国際交流協会）	12月2日（土）～3日 （日）
もみじまつりと関 連行事		関西セミナーハウスと共催	11月23日（木・祝） ～25日（土）
		洛北の秋を静かに味わう：ウクライ ナの平和を願って（仮） 講師・演奏： 渡辺総一（造形作家）、 沢知恵（シンガーソングライター） 、榎本恵（牧師）、橋本ルツ子（ピア ニスト）	

IV 関西セミナーハウス2023年度事業計画

はじめに

2022年度は、NCA 募金により関西セミナーハウス再興のための資金を確保す
ることができ、2023年度クリーンスタートに向け懸念であった施設の整備に充て

ることができた。

２０２３年度の関西セミナーハウスの事業計画は、以下の通りとする。

１．運営方針

- １）コロナによる臨時休館解除２年目となる本年度は従来の運営方法にとらわれず、利用者の利便性を高め、施設の魅力を再発信するなど今後の社会変化に対応した事業展開を行う。
- ２）宿泊者および会議室利用の増加を図ることにより、収益事業として財団経営の安定化につなげる。
- ３）関西セミナーハウス施設維持管理を目的とした寄附金の募集を再開する。
- ４）関西セミナーハウスの運営に関する諸課題については経営委員会で検討し、運営する。

２．予算編成上の留意点

- １）会計単位別の収支予算書に加え、関西セミナーハウスについては損益計算書を作成する。
- ２）職員の人件費について、本部と関西セミナーハウスの従事割合により配分する。従事割合は本部事務局で検討する。

V 本部２０２３年度事業計画

１．運営体制

事務局態勢を強化し、運営の強化を図る。

２．寄附金

インターネットによる募金方法の導入、寄付金を計画的に実施する。

３．広報活動

機関紙「はなしあい」の新たな形態による発刊、
広報媒体、広報対象先の検討

- ４．ドイツをはじめとする海外のアカデミー運動との連携を図るためのタスクチームで検討する。